

發、唐會要の葉護逸標苾〔四九〕に關するものと同一〔五〇〕なれば、此等の三者が同一人なることは勿論なり、冊府元龜卷九 褒異篇に九姓首領回鶻思力裴羅と記せるものは骨力裴羅を誤りたるものに外ならず、次に述ぶるが如く天寶の初め、裴羅は葛羅祿の部酋と共に、左右の葉護と稱したるものなれば、舊唐書及び冊府元龜に葉護の名を用ゐたるは、之に由るなるべし。裴羅の死は唐會要及び冊府元龜に依れば天寶六載（七四七年）なり、〔五一〕 Sine-usu の紀功碑にも磨延啜の父即ち裴羅が猪の年（天寶六載）に尙生存し、然も此の年の中に死したりと思はるる記事あり、即ち同碑の北面第十一行目より十二行目にかけて Ramstedt 氏の譯に従へば

Im Schweinsjahre (schlug ich sie?).....Den Tai-Bilgä-Tutuk ernannte er zum Jabgu. Nach diesem starb mein Vater, der Kagan.

と記せり、此の猪の年なる文字と「Tai-Bilgä-Tutug（大毗伽都督に當る語なり）を葉護に任命し、其の後余が父は死せり」と記せる一節との間には文字の闕落ありと雖、冊府元龜に天寶六載丁亥の年に、此の可汗の死を記せることと考へ合すれば、思ふに必ず此の兩行は同一年中の記事にして、兩史料は好く相一致せるものと見ざる可らず、Ramstedt 氏は Schlegel 氏の示せる支那の史料に依れば、此の可汗の死は七四六年（天寶五載）なれど、碑文北面第十一行には此の可汗が猪の年に尙生存したることを記せりとて、兩史料の記事の相合せざるを怪しみたれど、Schlegel の記する所は何等確かなる根據に基きたるには非ず、唯だ邊裔典の天寶五載の條下に、裴羅が悉く匈奴の地を得たるを記し、之に續きて其の死を記したるを以て、直ちに此の年に裴羅が死したるものと見たるに過ぎず、又舊唐書廻紇傳には「乾元二年夏四月、廻紇毘伽闕可汗（即ち裴羅）死」と記せども、此の時日は裴羅の子に